

塩野義製薬株式会社御中

「Mother to Mother プロジェクト」第2年次 月次報告①

対象期間：2016年10月1日～2016年11月30日

1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスプロ郡 イララマタク地域開発プログラム事業地内
事業期間：	2016年10月～2017年9月（事業2年目）
対象人口：	14,612人（うち5歳未満児2,440人と出産年齢の女性3,507人を含む）
年間予算：	2,000万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18%を含む）
活動目的：	ナロク県オスプロ郡の保健医療施設レベルの強化、母子保健サービスの向上、及び住民への啓発と意識・行動変容を通して、対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

2. 進捗報告

第2年次に予定している9つの活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。項目の番号は第2年次事業企画書4～6ページに記載の支援活動内容の番号に一致しております。

活動① 診療所の建設

2016年11月8日、1年次に建設した診療所での開所式を行い、診療を開始しました。開始に併せて、待合所に椅子、診察室・薬局や受付に机や書類棚、薬品棚などの必要な備品を購入しました。また、以下の通り、診療に必要な機材を購入・設置しました。

【購入機材】

ベッド、幼児用ベッド、リネン、ストレッチャー、分娩台、診察台、分娩・処置キット（ピンセット、はさみ、トレイ等）、酸素ボンベ（流量計、加湿器付き）、吸入器、電動手術用吸入器、体重計（乳幼児用・大人用）、血圧計、聴診器、体温計、ワクチン保管用冷蔵庫、高圧蒸気滅菌器、医療廃棄物用ごみ箱、点滴スタンド、消火器、白衣など

※車椅子、顕微鏡、遠心分離機、冷蔵庫、リネン用カート、書類棚などについては、今後政府から提供され次第設置予定。

新しい外来診療室が11月8日から稼働し、11月末までに414人（男性100人、女性64人、子ども250人）が診療所で保健サービスを受けました。昨年の11月の来院数は240人であったため、

昨年と比べてより多くの人々が医療サービスを求めて診療所に来るようになりました。



完成した診療所



開所式の様子

ナロク県知事夫人が開所式でテープカットを行い正式にオープンしました



診察室の様子（診察台）



待合所で診察を待つ村人

5歳未満児の予防接種を行っています

また、2年次に建設予定の産科棟、台所、スタッフ宿舎は、2017年1月から建設を開始できるよう準備を進めています。また、水タンクは1月下旬に設置完成予定です。

活動② コミュニティ・レベルでのアドボカシー活動

エランガタ・エンテリット地区のアドボカシー・グループの20名に対して、保健課題に関するアドボカシー活動の能力向上のため、フォローアップ研修を実施しました。アドボカシー・グループは、医療関係者と協働して、施設での保健サービスを受けることの重要性を伝える活動を行

っています。



エランガタ・エンテリット地区の
アドボカシー・グループに対する
能力向上研修の様子。

活動③ 巡回診療

対象期間中、保健省や村落保健員と協力して巡回診療を2回実施しました。5歳未満児319人(男子162人、女子157人)が予防接種を受け、そのうち91人(男子48人、女子43人)が予防接種を完遂することができました(BCG、経口ポリオワクチン、三種混合、肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチン、麻疹・風疹ワクチン)。また、同時にビタミンA投与や駆虫も行っています。巡回診療に訪れた患者さんたちの主な疾患はマラリアや皮膚・眼感染、上気道感染で、医師による処置と薬の処方が行われました。

巡回診療時には、医師による診察に加えて、集まった住民に対する啓発活動も実施しています。特に妊産婦や授乳婦に対して、安全な妊娠・出産また育児のために、妊婦健診や施設分娩の重要性、授乳婦の適切な衛生行動や完全母乳育児の重要性、適切な離乳食、乳幼児の成長状態のモニタリングなどについての啓発教育を実施しました。

対象期間に保健施設で4件の安全な分娩が行われました。また、114人の授乳婦と31人の妊産婦が産前健診、HIV検査、尿検査、血液検査、VDRL(梅毒)検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。さらに継続的な啓発活動により、一人でも多くの住民の意識と行動の変革を目指していきます。

活動⑨ 栄養不良児支援

巡回診療の際、4人の栄養不良児(3人の消耗症児^{*1}と1人の低体重児)が見つかり、保健省から栄養補助食品が配布されました。

この地域では主な栄養源を牛乳に頼っていますが、特に乾期には牛乳が不足するため、5歳未満児の栄養不良を防ぐために、親や家族に対しての栄養教育が必要になります。

^{*1} 消耗症: 急性の栄養失調の状態。身長に対する体重のスコアで評価します。

3. 特記事項

例年、10月下旬から11月上旬には小雨期が開始するところ、本年は雨が降らずに乾期が続いたため、多くの住民が水や牧草地を求めて別の場所に移動しました。本事業活動の中でも住民が集まりにくいなど、活動実施にも影響がありました。11月下旬には短い雨期が訪れ、他の地域に移動した住民が徐々に戻り始めてきています。

※次回の月次報告は2016年12月1日～2017年1月31日の期間の活動を2017年2月にご報告させていただきます。

【連絡先】

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当：堀切、谷村（マーケティング第2部ドナーエンゲージメント課）